

## 森林ふれあい推進事業（愛称「緑の山歩塾」）

### 第4回イベント「紅葉の栗駒・秣岳縦走」

東北森林管理局では、国民の皆さんが森林の中で自然と親しみ、遊び学ぶ喜びを味わうことができるよう、森林ふれあい推進事業（愛称「緑の山歩塾」）を実施しております。

今回は10月1日（木）に行われた第4回イベント「紅葉の栗駒山・秣岳縦走」（参加者39名）について、同行取材しましたので紹介いたします。

**7：00**

集合場所の秋田駅東口、3倍を超える応募者の中から見事当選された方々の強運を表すような秋晴れに恵まれ一路栗駒山に向け出発。

**9：45**

須川高原温泉駐車場へ到着、平日にもかかわらず紅葉時期のため駐車場はほぼ満車で、栗駒山紅葉の知名度の高さが伺えました。開会式では、高橋指導普及課長が「開催日がこのような絶好の時期になり嬉しく思う、栗駒の自然を十分に堪能して欲しい」と挨拶。

いざ紅葉の栗駒山に出発しました。



須川高原温泉から見る栗駒山麓



紅葉真っ盛りの中での開会式



挨拶する高橋指導普及課長



栗駒山岩手県側登山口から出発

10:10

登山道をしばらく進むと、名残ヶ原（お花畑）に到着、ここは湿性植物のワタスゲ、ヌマガヤ、キンコウカ等が一面にあり、夏には花畑、紅葉のこの時期は草紅葉に包まれます。



草紅葉に包まれた名残ヶ原



職員から紅葉についての説明を聞く参加者、「きれい」「すばらしい」「来て良かった」など感激の声が



10:30

一行は地獄谷へ到着、登山道は多くの登山者でいっぱいでした。下山中の方々からは、すれ違うたびに「がんばってください」「頂上は素晴らしかった」など励ましの声を掛けられ、登る足にも元気がみなぎりました。

この地獄谷は、火山性ガスが噴出している場所で、登山道を歩いていても硫黄の臭いがしましたが、当日は風もなく、ガスの噴出も少なく感じられました。



地獄谷を通過する参加者、山歩塾の他にも多くの登山者が

10:45

登山開始から1時間経過、一行は昭和湖へ到着、ここで参加者全員で記念写真を撮りました。

この昭和湖は、昭和19年の噴火により出来たカルデラ湖で、かつてはコバルトブルーの神秘的な湖でしたが、平成8年の鬼首地震の影響により現在の色に変化、また、昨年の岩手・宮城内陸地震の際にも一時的に白く変色したという話もありました。

昭和湖で休憩後、いよいよ天狗平に向け出発、登山道は急な登りに変わり、参加者は引率者の指導を受け、一步一步踏みしめながら安全に登りはじめました。



昭和湖をバックに全員で記念写真



コバルトブルーがなつかしい昭和湖



登山道はここから急に



すれ違う多くの下山者にも励まされ天狗平を目指しました

11:50

急な登山道を登ること約1時間、多くの登山者とすれ違いながら、分岐点である天狗平へ無事到着、秋晴れの中360度のパノラマを見ながらの昼食となりました。

約30分後出発、今回は紅葉を見ながら稜岳への縦走するというので、栗駒山山頂に背を向け、今度は峰沿いにサラサドウダンが群生する登山道「サラサドウダン街道」を進み稜岳を目指しました。



天狗平で昼食



天狗平から見える天狗岩と栗駒山頂

12:40

街道を約600m進むと小高い岩場の岩頭に到着、秋田・岩手・宮城全て見渡せる素晴らしい眺望が広がり、行く先はるか彼方には目指す稜岳も見えました。



眼下には昭和湖が見え、写真奥は昨年発生した地震の傷跡が残る岩手県一関市



サラサドウダン街道を進む参加者



登山道の行く先には目指す稜岳（写真中央）が見えました（けっこう遠い）

14:00

天馬尾根コースを進むこと1時間30分、白銀湿原に到着し木道で休憩、この湿原も夏は多くの湿原植物のお花畑となります。

休憩後木道を進み最後の難所である岩場を通れば目指す稜岳はもうすぐそこです。



白銀湿原で休憩



白銀湿原を出発



足場の悪い岩場を抜ければ稜岳はもうすぐ

14:45

稜岳（標高1424m）に到着、各班ごとに記念写真を撮りました。

この頃からだんだん雲がかかり、山頂からの眺めは残念ながら見られませんが、時折雲の切れ間から見える景色は最高でした。





時折眼下に見える景色（手前湖は須川湖）

15:40

約6時間に及ぶ今日の縦走はけが人もなく、天気にも恵まれ無事終了しました。下山後の参加者も満足感でいっぱいの笑顔でした。

皆さん大変お疲れ様でした。



今回のイベントでは、栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域において、国有林内の原生的な天然林を身近にふれあっていただくとともに、保護地域における木道等の設置や植生回復のためのネット設置、更にはパトロールの実施等の保全活動についてもご理解をいただけたのではないかと感じました。

また、参加者からは、「自然を十分満喫できた」「眺めが素晴らしかった」「疲れたけど楽しかった」等の声が聞かれ、これもこの天候があつてこそではないかと感じた1日でした。